



# 本ばこ

ほん

## —新刊教材・図書紹介—

しん かん きょうざい と しょしょうかい

### 重層的「対話」

じゅうそうてき たいわ

『日本語学と通言語的研究との対話  
—テンス・アスペクト・ムード研究を通して—』

に ほん ごと がく つう げん ごと てき げん きゅう たい わ  
けん きゅう とお

編著者：定延利之  
へん ちやう じ さい だん ねい しのぶ

出版社：くろしお出版 (http://www.9640.jp/)

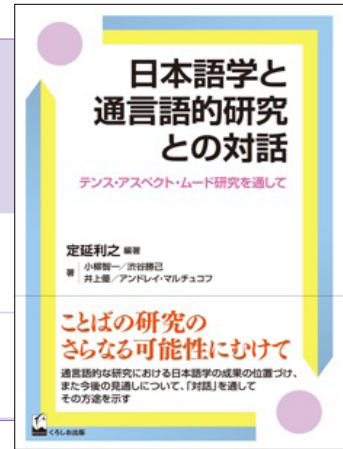
しゅつ ぱん しゃ くろしお ちゅう ぱん

発行年月：2014年5月  
はつ ぎょう ねん げつ ねん がつ

ISBN：978-4874246245 C3081

判型・頁数：A5判 240頁  
はん けい ページすう ほん ページ

定価：3,240円(税込み)  
てい げい えん ぜい こ



### ▽第一の「対話」

だいいち たいわ

最初に本書の構成を紹介しておきましょう。

さいしゅ ほん しょ こうせい しょうかい

第1章	記述的研究と通言語的研究との対話
第2章	歴史的研究と通言語的研究との対話
第3章	方言研究と通言語的研究との対話
第4章	対照研究と通言語的研究との対話

本書の題名にもあり、全ての章に繰り返し出てくる「通言語的研究」という言葉は馴染のない言葉かもしれませんが、簡単に言えば個別言語の研究の対極にあるもので、本書では言語類型論(タイポロジー)が中心になっています。

本書の背景には「通言語的な研究文脈の中で、日本語学の成果はどのように位置づけられるのか?」、逆に日本語学が「通言語的な研究に有益な成果を提供していくには、どうすればよいのか?」(序i)という問題意識があり、とりわけ研究蓄積のあるテンス・アスペクト・ムードに焦点が当てられています。そうした問題意識に沿って、本書では四人の研究者がそれぞれの専門分野の立場から、通言語的研究との「対話」を試みています。

### ▽第二の「対話」

だいに たいわ

この本にはもう一つの「対話」があります。各章が全て論文、それに対するコメントのコメント、そのコメントに対する執筆者の答え、そして最後にその答えに対するコメントの再コメント、という二往復におよぶ対話形式になっているのです。

コメントータは言語類型論の研究者で、ロシア人です。専門分野も国籍も違う二人の研究者の「対話」の中でさまざまなことが話題に上ります。例えば第3章では、山形方言のケ(東京方言の文末の「〜ッケ」「太郎の結婚式はいつでしたッケ?」に当たる)に関する論者が土台となって対話が始まり、論文中の用語の問題から方言研

究と通言語的研究の関連に至るまでの幅広い「対話」が繰り返されます。そしてこの「対話」の中で、問題の在り処、研究方法上の接点、さらには研究状況や方向性などさまざまな事柄が浮き彫りになっていくのです。

### ▽時空を超えたさまざまな言語へ

じくう ちよ げんご

第一の「対話」を理解するためには、それぞれの分野に関する専門的な知識がある程度必要になってくるでしょう。しかし、第二の「対話」へ進むとポイントがどこにあるのかが分かったり、思わぬところで理解のための鍵が隠されていたりもします。また、自分の持っている知識や問題意識、さらに自分の母語に関する知識や感覚を重ね合わせて読み進んでいけば、読者自身もこの「対話」に加わることができるのです。

とかく私達日本語教師は、現在使われている標準的な日本語に囚われがちです。時には古代の日本語や方言、あるいは韓国語や中国語、さらには世界のいろいろな言語に目を向けることも必要なのではないでしょうか。それによって日本語が今までとは違った表情を見せてくれるはずですよ。

目次	目次
序……………定延利之 1	序……………定延利之 1
序……………アンドレイ・マルチュコフ 10	序……………アンドレイ・マルチュコフ 10
<b>第1章 記述的研究と通言語的研究との対話</b>	<b>第3章 方言研究と通言語的研究との対話</b>
「発見」と「ミラティブ」の間 —なぜ通言語的研究と交わるのか—……………定延利之 3	方言研究と通言語的研究……………渋谷善巳 87
定延論文へのコメント……………アンドレイ・マルチュコフ 39	渋谷論文へのコメント……………アンドレイ・マルチュコフ 147
マルチュコフ氏への返答……………定延利之 43	マルチュコフ氏への返答……………渋谷善巳 153
再コメント……………アンドレイ・マルチュコフ 51	再コメント……………アンドレイ・マルチュコフ 161
<b>第2章 歴史的研究と通言語的研究との対話</b>	<b>第4章 対照研究と通言語的研究との対話</b>
古代日本語研究と通言語的研究……………小柳智一 55	対照研究と通言語的研究……………井上麻 165
小柳論文へのコメント……………アンドレイ・マルチュコフ 81	井上論文へのコメント……………アンドレイ・マルチュコフ 207
マルチュコフ氏への返答……………小柳智一 87	マルチュコフ氏への返答……………井上麻 211
再コメント……………アンドレイ・マルチュコフ 91	再コメント……………アンドレイ・マルチュコフ 215
	索引……………219
	編集者紹介……………224